

# 相模人形芝居 下中座 だより

表紙写真  
菅原伝授手習鑑 寺子屋の段(前)より

菅丞相に仕える白太夫の三つ子の次男。藤原時平の舍人。  
我が子と見せかけ菅秀才を養育していた武部源蔵に菅秀才の首を討ち差し出すよう命じる。  
衣装は雪持松と鷹の柄の大変豪華なもの。  
杖代わりに大型の刀を持つている。

人形の横顔

菅原伝授手習鑑～寺子屋の段(奥)より

昭和女子大学歴史文化学科

伝統芸能実習り。ポート(続)

日本民家園公演り。ポート

横浜市立下田小学校体験学習り。ポート

座員紹介～数珠つなぎ

下中座紹介

お知らせ

「令和七年度第53回 相模人形芝居大会」

令和八年新春号  
第十三巻

座員募集のお知らせ 編集後記

小竹の歳時記

## 人形の横顔

菅原伝授手習鑑  
寺子屋の段（奥）より松王の巻

菅原伝授手習鑑  
松のこと



松王(2)

カシラ分類 .. 文七

塗り .. 白

機構 .. フキ眉アオチ・寄り目・横目左右

うなずき .. 小猿式

髪型 .. 油付き櫛洗い鬢百日切藁

衣装 .. 白羽二重半腰

白精好袴

松王(1)

カシラ分類 .. 文七

塗り .. 白

機構 .. フキ眉アオチ・寄り目・横目左右

うなずき .. 小猿式

髪型 .. 油付き櫛洗い鬢百日切藁

衣装 .. 黒羽二重半腰

黒ぶつき羽織 鉄色野袴

次に、源蔵夫婦に真相を話しに訪れます。時平の家来に見つからないよう、地味な旅装束に身を固め、忍び頭巾をかぶつて登場します。

最後は、「菅秀才（実は我が子 小太郎）」の野辺送りに着る白装束です。

場面によって変わる衣装もお楽しみください。

準備の時、白くなつていた松王の髪を林前座長がドライヤーと油で黒くなおしてくださつたので松王は少し若返ることができた感じに。そして、リハーサルを終え開場。私個人としては舞台の低さへの対応など反省点もあつたものの、座員一同で頑張つて、無事に公演を終えることができほつとしています。

公演後には、お見送りと共に髪結いパフォーマンスも披露。「伊達娘恋紺鹿子」のお七の髪を結い

『寺子屋の段』では3回様変わりします。

最初は『寺子屋の段（前）』で時平の家来として登場します。病氣療養中という設定です。派手な雪持ち松の衣装に身を包み、髪には病鉢巻をまき、力紙を指しています。ちなみに表紙を飾っているのが、その松王です。

『寺子屋の段』では3回様変わりします。

最初は『寺子屋の段（前）』で時平の家来として登場します。病氣療養中という設定です。派手な雪持ち松の衣装に身を包み、髪には病鉢巻をまき、力紙を指しています。ちなみに表紙を飾っているのが、その松王です。

10月13日、2年ぶりに日本民家園・丁藤家住宅で公演をしました。演目は『菅原伝授手習鑑 寺子屋の段（奥）』。古民家という特別な空間で、人形たちが息づく一日でした。

公演の数日前に台風の予報があり、危ぶまれたお天気でしたが、当日は晴れて気持ちの良い一日となりました。

生田緑地の豊かな自然に抱かれた民家園。舞台となる「工藤家住宅」は、江戸時代に建てられた茅葺の曲がり家です。ゆつたりと流れる工藤家の時間に、土佐子師匠の音合わせの三味線が響き渡ると、時をさかのぼつたような錯覚を覚えます。

茅葺の曲がり家です。ゆつたりと流れる工藤家の時間に、土佐子師匠の音合わせの三味線が響き渡ると、時をさかのぼつたような錯覚を覚えます。

すべての公演が終わり、日中も暗い工藤家の片付けは小さものが紛れてしまいそうで細心の注意が必要でしたが、荷物の搬出入は後援会の方たちと近くに住む座員にお願いし無事に会場を後に。皆さん、いつも本当にありがとうございます。

文・長嶋緑

## 公演リポート

十月十三日

川崎市立日本民家園公演  
菅原伝授手習鑑  
寺子屋の段（奥）

上げてさばくと、観客から歓声が

上がり、人形の写真を撮つてもらつたり、お話ししたりお客様と交流も楽しめました。今回私は特訓をして髪結いに挑戦しています。さばくという目標は達成しましたが、もう少しきれいに結えたらなあ

という思いが残つています。練習あるのみですね。

すべての公演が終わり、日中も暗い工藤家の片付けは小さものが紛れてしまいそうで細心の注意が必要でしたが、荷物の搬出

入は後援会の方たちと近くに住む座員にお願いし無事に会場を後に。皆さん、いつも本当にありがとうございます。

文・長嶋緑



八月四日～六日

能  
習  
ト  
伝統  
実  
リポ

## 昭和女子大学歴史文化学科 伝統芸能実習

前号から引き続き、昭和女子大学歴史文化学科の伝統芸能実習でのインタビューをご紹介します。今号では田中さくら助手、大谷津早苗教授です。

### 田中さくら 助手

私は6年前、大学1年生の時にこの伝統芸能実習を受けました。当時は足遣いを担当していたけど、左遣いにも興味がありました。ちょうどコロナ禍前の実習だったので大学で出来た実習としてはとても印象に残っていました。

今回改めて助手という立場でこの実習と向き合ってみて、もつとうまく人形を遣えたなとか、やつてみたことがあったなとか当時を振り返りながら反省しつつ、でもやっぱりこういった機会はいいな、楽しかったなと思いました。

### 大谷津早苗 教授

大学では近世文学を勉強していて、中でも人形浄瑠璃作者近松門左衛門の作品に魅かれ卒論を書きました。高校教師を経て大学院に進み、そこで神奈川県文化財保護審議会委員で神奈川県民俗芸能保存協会会長でもあった後藤淑先生の教えを受けました。後藤先生の助言もあって首(カシラ)の研究をすることになり、ご紹介いただいたのが下中座です。岸忠義三代目座長、林美穂子四代目座長にはたいへんお世話になりました。

首の研究を進めるにあたって、人形の実物が手元にあつたほうがいいと思い、

道具を揃え始めました。研究目的で揃えましたが、やはり体験が大事だと思い、学生向けに「伝統芸能実習」という授業を作りました。三人遣いはまさに「阿吽の呼吸」で、この日本的な文化を体験してもらいたかったのです。

下中座は若い人たちが中心的なポジションにいます。とても良いことだと思いますが、その若い人たちが今後、何を考え何を目指すのかがすごく大事だと思います。新たな試みも期待していますが、古典は大事にして欲しい。そこを捨てると単に創作集団になってしまうので。文化財である自覚を持つて欲しいです。過去を確認しつつ今後を見据えて、いつて欲しいですね。

聞き手と文・倉橋知温

学校  
体験学習  
リポート

## 横浜市立 下田小学校

七月十四日



文・齊藤秀子

7月14日、横浜市港北区にある横浜市立下田小学校で相模人形芝居体験学習を行いました。対象は4年生全員の120名で、まずその人数の多さと元気さに圧倒されました。

学習の最初は、音楽室でのDVD視聴。相模人形芝居について、下中座の歴史と今、人形の構造と遣い方など難しい内容かと思われました。

その後、実際に人形遣いをして、順番を決めるのに苦労しましたが、やりたい気持ちと一生懸命に感激でした。後日いただいた、児童からの「がんばって続けてください」「応援します」の感想は、下中座へのエールですね。ありがとうございました。

彼女はおしゃれで、手芸が趣味とのことなので、人形の衣装の補修や、カシラや手足を入れる袋物などを作ってもらっています。ある時、新しい演目でお祝いのご馳走が必要になり、皆思案に暮れていたところ、煮しめや卵焼き、鯛の姿焼き、お赤飯等3段重に詰めたご馳走を作つてってくれ、一同感嘆したものでした。

また、気配りも良いので、公演時には来賓の方々やお師匠さん達の応対をお願いしています。座員に対しても、お弁当の手配や練習時のお茶の用意等細やかに気を遣ってくれています。

下中座に入つて良かつたことは、公演を通じて沢山の人と出会えたことであり、これからも人のお役に立てるような人でありたいと語ります。

小池さん、いつまでも元気で！

これからもよろしくお願ひします。

が、必死にメモを取る児童の姿が印象的でした。次の、姫の人形解説と千代と万寿の羽根つきの実演には、皆、興味深々の様子。ところどころ歓声をあげながら見入っていました。

「姫の膝はどうやって作っていると思う?」の質問に、「人間の手」はと声が返ってきたときは、とってもびっくり。後で、児童たちが事前に伽羅先代秋政岡忠義の段の動画を見ていたことを知りました。

そして最後は、人形ふれあいタイムです。6つのグループに分かれて、みんなに人形を持つてもらいました。まず「首を持つてみたい人」と声をかけると、「持ちたい、持ちたい」の嵐。名前順にしたり、じやんけんしたり、順番を決めるのに苦労しましたが、やりたい気持ちと一生懸命に大感激でした。



座員  
数珠つなぎ  
座員紹介

坂井弘美さんは  
紹介する人は

### 小池洋子さん

下中座の「母」としても  
欠かせない存在



若い座員には人生について教えてくれたり…。しかし堅苦しさがない小池さん



坂井弘美さんは  
紹介する人は

